

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

| | | | |
|-----|---|---|--|
| A-1 | 教育学研究科の理念 | | 変更の有無 |
| | 「子ども理解」 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| A-2 | 教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上) | 教育学研究科の目的(Webサイト上) | 変更の有無 |
| | 教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うとともに、高度な専門性によって指導的な役割を担うことのできる「教育者」(専門的教育者)及び研究者を養成することを目的とする。 | 本研究科は、乳幼児期、児童期、青年期の教育問題の解決に資する教育と研究、さらに社会貢献に対応できる大学院教育を行うことを目的としています。具体的には、「子ども理解」を基礎に、現代の複雑で困難な教育問題に向き合い、同時に高度な専門性によって指導的な役割を担うことのできる「教育者」(専門的教育者)と研究者の養成を目指します。 | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| | めざす学生像 | | 変更の有無 |
| | 高度な専門的知識と理論構築、さらには現実に即した具体的支援ができる人、広い視野に立ち、指導的な立場を担える人。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| | 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP) | | 変更の有無 |
| | 【博士課程前期課程】 ① 教育学の幅広い専門的知識を基に「子ども理解」を深め、現代の多様な教育問題に対して実践的に対応することができる。 ② 建学の精神であるキリスト教主義教育の理念を理解し、教育の基礎となる価値観・思想・理論・歴史ならびに学問的方法を修得して、社会的要請を踏まえた研究・教育活動ができる。 ③ 深い人間理解と鋭敏な人権感覚に基づくコミュニケーション力を身に付け、情熱をもって教育の対象や教育・研究活動にかかわることができる。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| | 【博士課程後期課程】 ① 教育学における専門領域について、高度な専門的知識を実践と結び付け、現代の多様な教育問題の解決に資する教育・研究活動ができる。 ② 建学の精神であるキリスト教主義教育の理念を理解し、使命感とモラルに支えられた高度な専門的技能と、国際的な視野に立った科学的見地から問題を分析し、概念化できる研究能力を身につけている。 ③ 深い人間理解と鋭敏な人権感覚に基づくコミュニケーション力を身に付け、情熱をもって教育の対象や教育・研究活動にかかわり、指導的立場を担うことができる。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

| A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|--|--|
| 【確認1】 | 「教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 教育学研究科の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 「教育学研究科の目的(Web サイト上)」は、A-2「教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「教育学研究科の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認5】 | 学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認6】 | 目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 検証手続き | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 決定・判断時期 | 2017年3月 |
| | 検証エビデンス | 研究科委員会・議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2015年9月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 成果指標を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

A-3

| 教育研究目標 | | 変更の有無 |
|--------|---|--|
| 目標1 | (タイトル) 再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| | (狙い・内容) 2017年度に再編する教育学研究科の教育・研究内容の周知につとめる。 | |
| 目標2 | (タイトル) 研究者養成コースの教育研究目標 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| | (狙い・内容) 前期課程「研究者養成コース」では現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の養成を目的としたコースワークをワークを行い、後期課程への進学につなげる。 | |
| 目標3 | (タイトル) 奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| | (狙い・内容) 前期課程「高度教育コース」では、奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成を目的としたコースワークを行う。 | |

| A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|---------------------------------------|---|--|
| 【確認1】 | 「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 「教育研究目標」は、周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 検証手続き | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 決定・判断時期 | 2017年3月 |
| | 検証エビデンス | 教育学研究科委員会・議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:2017年3月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 成果指標(学位授与数)を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () </div> </div> |
| | 判断根拠 | 学校基本調査の結果、教育学研究科第1次答申、第2次答申 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

A-4

| 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP) | 変更の有無 |
|---|--|
| <p>【博士課程前期課程】 博士課程前期課程では、授業科目を幼児教育コース科目、初等・中等教育コース科目、臨床教育コース科目に分け、研究科目として「教育学研究演習」を設けている。各コースの授業科目は「子ども理解」を基礎におき、実践的視野を重視して体系的に編成している。研究科目の「教育学研究演習」以外はすべて選択科目であり、各コースの科目を幅広く履修することを認め、一体的な研究指導を行う。 必修科目である「教育学研究演習」は、教育学の分野、方法における高度な学術知識の修得と修士論文作成のための研究指導を行う科目であり、学生全員に修士論文の提出を求めている。 なお、博士課程前期課程を修了するためには、以下の要件をすべて満たす必要がある。 (1)2年以上の在学(休学期間は算入しない) (2)必修科目「教育学研究演習」8単位と選択科目24単位(他コース科目は12単位を上限に選択科目として算入可)の合計32単位以上の修得 (3)修士論文審査合格</p> <p>【博士課程後期課程】 博士課程後期課程のカリキュラムは「研究演習」(必修科目)で構成される。 「研究演習」では、 入学時に定められた指導教員の下で博士論文の作成を主たる目的とする。 なお、博士課程後期課程を修了するためには、以下の要件をすべて満たす必要がある。 (1)3年以上の在学(休学期間は算入しない) (2)必修科目「研究演習」12単位の修得 (3)博士論文審査合格</p> | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

| A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|--|--|
| 【確認1】 | 教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認5】 | 教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 検証手続き | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 決定・判断時期 | 2017年3月 |
| | 検証エビデンス | 教育学研究科委員会・議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年3月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 成果指標を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | IR調査の結果 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |


<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

A-5

| 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP) | 変更の有無 |
|--|--|
| <p>I 前期課程</p> <p>研究者養成コース</p> <p>1. 保育学・教育学領域における研究者をめざす者。</p> <p>2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的文章表現能力を有する者。</p> <p>3. 研究活動に必要な保育学・教育学領域における英語文献読解のための基礎的能力を有する者。</p> <p>4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。</p> <p>高度教育コース</p> <p>1. 研究マインドをもった高度な保育・学校教育の実践者をめざす者。</p> <p>2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的文章表現能力を有する者。</p> <p>3. 保育・教育現場において奉仕的なリーダーシップを発揮することを自己の使命であると自覚し、学問を通じてさらなる研鑽を積みたい者。</p> <p>4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者</p> <p>II 後期課程</p> <p>1. 保育学・教育学領域における研究者として自立し、さらなる研究活動を自ら推進する能力を有する者。</p> <p>2. 保育学・教育学領域における修士課程修了程度の専門知識を獲得し、優れた日本語の論理的文章表現能力を有する者。</p> <p>3. 研究活動に必要な保育学・教育学領域における英語文献読解のための優れた能力を有する者。</p> <p>4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。</p> | <p><input checked="" type="checkbox"/>有り</p> <p><input type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

| A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|---|--|---|
| 【確認1】 | 学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 検証手続き | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 決定・判断時期 | 2017年3月 |
| | 検証エビデンス | 教育学研究科委員会・議事録 |
| 前回の横票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年3月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 成果指標(入学者数)を定めて現状を把握の上、大学院問題検討委員会において課題を整理している。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">  </div> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () |
| | 判断根拠 | 学校基本調査の結果 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

A-6

| 学生支援に関する方針 | | 変更の有無 |
|-----------------|-----------------|--|
| 2016年度中に検討し設定予定 | | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| 修学支援 | 2016年度中に検討し設定予定 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| 生活支援 | 2016年度中に検討し設定予定 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| 進路支援 | 2016年度中に検討し設定予定 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

| A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|--|---|
| 【確認1】 | 学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み </div> | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 検証手続き | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 決定・判断時期 | 2017年3月 |
| | 検証エビデンス | 教育学研究科委員会・議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:未定) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 成果指標(在学者数)を定めて現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> → </div> </div> |
| | 判断根拠 | 学校基本調査の結果 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

A-7

| 教員像 | | 変更の有無 |
|--|---------|--|
| 2016年度中に検討。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| 無しの場合どのように設定するか？ | 責任主体・組織 | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 設定方法 | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 設定見込み時期 | 2017年3月 |
| 教員組織の編制方針 | | 変更の有無 |
| 定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、研究科全体の教員組織の適切性を検討する。 | | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

| A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|---|---|---|
| 【確認1】 | 教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 教育学研究科委員会(議長:研究科委員長) |
| | 検証手続き | 大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。 |
| | 決定・判断時期 | 2017年3月 |
| | 検証エビデンス | 教育学研究科委員会・議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年3月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 現状を把握の上、教育学研究科委員会において課題を整理している。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 学校基本調査、教育学研究科 第1次答申、第2次答申 |
| 周知・公表方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |

2016年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

※評価専門委員会・第三者評価結果 2017年1月27日公示

- ・「学生支援の方針」について策定されることが望まれます。(A)
- ・学生支援に関する方針は、「2016年度中に検討し設定予定」となっていますので記載通り、本年度中に設定することが期待されます。
- ・教員像は、教員であるための要件だけを述べています。教育学部の理念、目的、教育目標を達成するために必要と考えられる教員組織のあり方について基本的考え方を明らかにした記述にすることが望まれます。(B)
- ・「再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知」という文言でそれが「教育研究目標」として掲げられているのは、強い違和感を持ちます。自らの「教育・研究内容」を周知させることが、自らの「教育研究目標」ということでしょうか。「教育研究目標」はどのような教育内容、どのような研究を推進していくかを「目標」とするのが普通ではないでしょうか。(D)
- ・本年度3月に実施が予定されている、A-1、A-2、A-3、A-4、A-5、A-7の検証を通じた適切な改善活動が期待されます。(E)
- ・理念・目的等が見直され、社会、教職員に対してより伝わりやすい内容になったと思います。
- ・DP、CPそれぞれも変更され、きっちりと書かれている印象ですが、両者の関係性は若干明確ではないように見受けられます。今後3ポリシーの関係性が問われることが予想されますので、引き続き継続して検討が進められることが期待されます。
- ・教員組織の編制方針について、具体的にどのような視点に基づいた組織編制を行っているのか、適切性を確認しているのか、今後具体的な内容が検討されることを望みます。(G)
- ・概ね適切な自己評価がされています。
- ・検証プロセスのエビデンスとしては、各種委員会の記録を提示することが望まれます。(I)

2016年度 自己点検・評価 【教育学研究科】

A票変更点
記述シート

<A票変更点記述シート>

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

【A票変更点記入欄】

| | |
|-----------|---|
| 項目名 | A-1 教育学研究科の理念 |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、乳幼児期、児童期、青年期の人間形成上の問題を、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、個々のライフサイクル相互の影響関係を全体的に視野に入れて、解決に導くことができるような教育と研究、さらに社会貢献に繋げていける大学院教育を行うことを理念としている。</p> <p><変更理由> 2017年度より教育学研究科再編のため</p> |
| 項目名 | A-2 教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 今日の価値観が多様で不確実な社会状況においては、人々が互いのライフ・ミッションの実現へ向けて「共生」できるインクルーシブな社会形成をめざしつつ、意味豊かに世代が継承されていくための普遍的な営み(=要:かなめ)である保育・教育に、世界市民の一員としての使命を自覚した研究者と教育者が求められている。 教育学研究科は、このような認識のもと、関西学院のキリスト教主義に基づいて、人間一人ひとりの〈いのち〉が、唯一無二の贈与であることへの畏敬をもとに「子ども理解」を深め、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、広く深い教養としなやかな批判意識をもって、現代の複雑で困難な諸問題、生涯にわたる人間形成上の諸問題に向き合う「研究者」の養成と、その専門性によって奉仕的なリーダーシップを発揮することができるような研究マインドをもった「教育者」の養成を行うことを目的としている。その際、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、異なる世代間の影響関係を全体的に視野に入れ、社会貢献に繋がるような研究を行うことを重視する。 また、以上を実現するために、教育研究の基礎をしっかりと学び取ると同時に、本学院の理想である「学びと探究の共同体」の実現を念頭におき、大学院生相互の学び合いを活性化し、研究科における多様な学びを有機的に連動させて、各自の研究に活かすことを奨励する。</p> <p><変更理由> 2017年度より教育学研究科再編のため</p> |
| 項目名 | A-2 教育学研究科の目的(Webサイト上) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、乳幼児期、児童期、青年期の人間形成上の問題を、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、個々のライフサイクル相互の影響関係を全体的に視野に入れて、解決に導くことができるような教育と研究、さらに社会貢献に繋げていける大学院教育を行うことを教育理念としている。</p> <p><変更理由> 2017年度より教育学研究科再編のため</p> |
| 項目名 | A-2 めざす学生像 |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容>「研究者養成コース」では、広く深い教養と学識、しなやかな批判意識をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の育成をめざす。また、「高度教育コース」では、同様の教養と学識、そしてしなやかな批判意識をもって奉仕的なリーダーシップを発揮することができるような研究マインドを有する高度な実践者の育成をめざす。</p> <p><変更理由> 2017年度より教育学研究科再編のため</p> |

| | |
|-----------|--|
| 項目名 | A-2 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 前期課程 1. 教育学研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。 2. それぞれの学問的研鑽によって、卓越した研究者、保育者、教育者として社会に貢献できる資質を培った者。 3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(=要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。 4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる能力を培った者。 5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を培った者。 後期課程 1. 教育学研究科博士課程後期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文審査に合格した者。 2. 自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる者。 3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(=要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。 4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる高度な能力を有する者。 5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を有する者。</p> <p><変更理由> 2017年度より教育学研究科再編のため</p> |
| 項目名 | A-4 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 教育学研究科では、以上の教育目的を達成するため、乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域ともに、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施している。 前期課程 乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域は、ともにそれぞれの目的に応じたカリキュラム編成を行っている。各領域には「研究者養成コース」と「高度教育コース」が設けられ、同一領域内での開設科目群から、コースの目的に応じて履修すべき科目の選定を行っている。各領域の開設科目群は、研究基礎科目、専門領域科目、フィールドワーク科目、研究演習から構成され、研究者養成の基礎となる科目や教員に求められる高度な専門性を培う科目を配置している。 研究基礎科目、専門領域科目には、教育学を体系的に学ぶことができるように科目が配置されている。各研究領域には、単独で開講されている科目に加え、包摂的な学びを可能とするために共通開設科目を設けている。フィールドワーク科目では、乳幼児教育や初等・中等教育に関連する現場等での実践研究に取り組み、理論と実践の往還を重視している。研究演習においては自らの研究を論理的に展開できる学問的な能力の育成を高める指導・助言が行われ、修士論文の作成を最終目標としている。 「研究者養成コース」「高度教育コース」ともに、修士学位取得に必要な単位数は32単位であり、コースごとに必修科目が定められている。研究者養成コースにおいては、5年間の博士課程を見据えたコースワークに基づき研究基礎科目を中心に12単位の必修科目が定められている。「高度教育コース」においては、前期課程の2年間で教員に求められる高度な専門性を幅広く学ぶことができるよう研究基礎科目2単位およびフィールド科目2単位以外は、すべて選択科目である。 後期課程 コースワークとして教育学特殊講義が、リサーチワークとしての研究演習が設けられている。教育学特殊講義においては、様々な領域への学びと探究を促すコースワークが行われる。研究演習においては、学位論文提出までの間、指導教員を中心とした指導・助言など、博士学位を取得するためのきめ細やかな指導が行われる。</p> <p><変更理由> 2017年度より教育学研究科再編のため</p> |

| | |
|-----------|--|
| 項目名 | A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容></p> <p>前期課程 研究者養成コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育学・教育学領域における研究者をめざす者。 2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的な文章表現能力を有する者。 3. 研究活動に必要な保育学・教育学領域における英語文献読解のための基礎的能力を有する者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。 <p>高度教育コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究マインドをもった高度な保育・学校教育の実践者をめざす者。 2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的な文章表現能力を有する者。 3. 保育・教育現場において奉仕的なリーダーシップを発揮することを自己の使命であると自覚し、学問を通じてさらなる研鑽を積みたい者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。 <p>後期課程 研究者養成コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育学・教育学領域における修士号を有し、研究者として自立して、さらなる研究活動を自ら推進する能力を有する者。 2. 保育学・教育学領域における修士課程修了程度の専門知識を獲得し、優れた日本語の論理的な文章表現能力を有する者。 3. 研究活動に必要な保育学・教育学領域における英語文献読解のための優れた能力を有する者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。 |
| | <p><変更理由></p> <p>2017年度より教育学研究科再編のため</p> |
| | 項目名 |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容></p> <p>大学院指導教員は教育学研究科委員会の構成員であり、大学院において研究を指導する条件として次のように定めている。前期課程については、①修士の学位を有する者②原則として教授任用後1本以上の学術論文の刊行がある者、または准教授任用後、3本以上の学術論文の刊行がある者。後期課程については、①博士の学位(Ph.D)を有している者②博士課程前期課程指導教員任用後に単著の学術書等、優れた学術研究業績がある者③博士課程前期課程の研究演習を2年以上担当した者、以上①～③を全て満たした者のほかに、他大学においてすでに博士課程後期課程指導教員に任用されている場合</p> |
| | <p><変更理由></p> <p>前回の記述内容は事実と異なるため</p> |

<評価専門委員会・第三者評価結果記入欄>

- ・ 理念・目的等が見直され、社会、教職員に対してより伝わりやすい内容になったと思います。
- ・ DP、CPそれぞれも変更され、きっちりと書かれている印象ですが、両者の関係性は若干明確ではないように見受けられます。今後3ポリシーの関係性が問われることが予想されますので、引き続き継続して検討が進められることが期待されます。
- ・ 教員組織の編制方針について、具体的にどのような視点に基づいた組織編制を行っているのか、適切性を確認しているのか、今後具体的な内容が検討されることを望みます。(G)
- ・ いずれの変更内容とその理由についても適切です。(I)